

国語科学習指導案

授業日 令和5年7月10日
 学習者 3年2組 28名
 授業者 阪本 智

1. 単元名「まいごのかぎ」

2. 単元の目標

- ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知(1)オ)
- ◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思C(1)エ)
- ◎登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。(思C(1)イ)

3. 単元の評価規準

知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。((1)オ)	・「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ)	積極的に登場人物の気持ちの変化を想像し、学習課題に沿って、物語の感想を書こうとしている。

4. 単元計画と学習評価(全7時間)

	時	学習内容	学習評価【知・思・態】[方法]
第1次	1	単元全体の学習の見通しをもち、学習計画を立てる。初発の感想を書き、一読した時点で面白いと思うところや不思議に覆う部分などを共有する。	【思C】登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述をもとに、おおまかに捉えている。[発言・記述] 【態】物語の内容について自由に想像を広げて楽しみ、進んで学習計画を立てようとしている。[観察・発言]
第2次	2	場面ごとの出来事などの様子がよく分かる言葉を手掛かりに、お話の大まかな内容を捉える。	【知】様子や行動、気持ちなどを表す語句に着目し、語彙を増やしている。[発言・記述] 【思C】場所と出来事に着目して場面に分け、登場人物の行動や気持ちなどについて叙述をもとに捉えている。[発言] 【思C】登場人物の考え方や気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて、具体的に想像している。[発言・記述] 【態】出来事と登場人物の気持ちを積極的に結び付けて考え、気持ちの変化を捉えようとしている。[観察・発言]
	3 4	物語の最初と最後で、不思議な出来事に対する「りいこ」の気持ちや考え方がどのように変化したのかを考える。	
☆ 発展	5 (本時)	不思議に思うことなどについて、自分がもっと深く調べたいと思う事柄を決め、叙述をもとに考える。	
第3次	6	「おもしろいな。」「すきだな。」と思ったところを中心に、感想を書く。	【思C】文章を読んで理解したことに基づいて、感想をもっている。[発言・記述]。 【思C】文章を読んで感じたこと共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。[発言・記述] 【態】自分の考えと友達の考えを比べて、共通点や相違点を見つけ、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。[観察・発言]
	7	書いた感想文を友達と読み合い、自分の考えとの共通点や相違点を伝え合う。	

5. 本時でめざす子どもの姿

- 不思議に思うことなどについて、自分がもっと深く調べたいと思う事柄を決め、叙述をもとに考えることができる。

6. 仮説との関連

①「やってみたい」と思える課題設定の工夫(仮説1)

- ・本教材は、「うさぎ」や「かぎ」など、正体や動向があえて不明瞭に描かれている事柄が多く、疑問に思う点について深く調べたい内容である。その特性を生かし、指導計画で示される視点以外に「自分がもっと深く調べたいことについて調べる」ことを本時の課題に設定した。

- ・叙述をもとに「行動や気持ち」「場面の移り変わり」を読み解くための技能や思考力を身に付けられるよう各時間の課題を設定した。その達成感と自信が、疑問に思うことを主体的に選択し考えようとする本時の意欲につながる。また、国語科の指導事項を確実に身に付ける手立てとして①本文の並べ替えなどの「アニメーションゲーム」によって、主体的に活動しながら文章構造を把握する言語活動、②全文シートを用いて物語全体を俯瞰的に捉え叙述を読み解く活動、③心情曲線による主人公の変容の図示などを取り入れる。


※「子どもが主人公」の学びを実現するためには、教科の系統性を踏まえ適切に指導することや、自力で課題を解決するため必要な力を確実に身に付けさせることが必要。今後は教科をより絞って研究を積み重ねる必要があるかもしれない。

②学びの場の保障（仮説2）

- ・既存の指導計画に、自分が疑問に思うことについてさらに読み解く時間を第5時として追加した。
- ・自己決定の難しい児童には選択肢を提示するなど、児童の意欲や読解力に応じて様々な課題設定ができる（個別最適な学び）。また、学習中はグループ学習の形態を取り、課題が同じでも異なる場合でも交流の自由を保障しながら進行する（協同的な学び）。

※指導事項と児童の主体性のバランスが難しいという今年度の研究の課題に対する手立ての一つとして、既習を生かした発展的な学習の時間を設けることを提案したい。そうすることで、指導事項に縛られず自由度の高い自己選択ができる、選択の結果うまく解決に至らない場合も一つの経験と捉え、価値づけることができる…などのメリットがあると考ええる。

7. 本時の学習展開（5／7）

	学習活動	教師の関わり ※評価の観点
導入 10分	① 音読練習…小グループで一文読み ② 前時までの振り返り ③ 本時の課題提示 <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; display: inline-block;"> ㊦調べたいテーマについて、文章からヒントを探して考えよう。 </div>	●叙述をもとに「行動や気持ち」「場面の移り変わり」を読み取ってきたことを確認。
展開 25分	④ 調べたい事柄を決める  ⑤調べたいことについて、叙述から根拠を見つけ考えを書く。 <想定されるテーマ> ・りいこのしたことは、本当によけいなことだったのか？ ・かぎはどうしてりいこの前に現れ、急に消えた？ ・どうしてうさぎは、りいこの前に現れたのか？ ・お話の中で、面白い表現は何か？ 他	●初発の感想を書く際に、物語に対し疑問に思うことを共有しているのでその中から選択したり、大まかな枠組の中から友達の考えを参考にして課題を設定したりする。自分で選択することが難しい児童には、「お話の面白い部分」など比較的調べやすい課題を教師から提示する。ネームカードで立場を明示することで、交流や協同学習を行いやすくする。 ● <u>全文シートを含んだワークシート</u> を用いて、関連箇所に傍線を引いたり言葉を書き込んだりして、根拠を明確にして考えを記入する。児童の取り組み具合によって、具体的な助言をする場合もある。 ●協同学習でも個別学習でも良いこととし、場合によっては活動の途中で交流の時間を設けることも想定する。
終末 10分	⑥何人かの成果を発表し、交流する。 ⑦本時の振り返りをする。	●一人ひとり内容の異なるテーマに取り組むことが想定されるため、成果を共有し次時以降の感想を書く活動に繋げる。